

### 第19回 運転ボランティアの気持ち ④

#### 運転ボランティアの楽しみと喜び

今回も引き続き「喜多町地区通院介護支援部会」の馬場会長に透析患者による運転ボランティア活動についてうかがいます。

馬場さんは運転ボランティアを通じて得られる楽しみについて、「一番嬉しいのは、利用者さんやそのご家族のよろこぶ姿を見られることです」と言います。自身の透析治療のほかに仲間のために運転することは容易なことではないと思われます。しかし、自分の活動が誰かの助けになっているという充足感は何物にも代えがたいということを次のように語ってくれました。

「うちの利用者さんは皆さん誰もが送迎のたびに“いつもありがとう”と言ってくれます。同じ患者仲間だからかもしれないですが、運転ボランティアに対して失礼なことを言う人はいませんね。感謝されると、活動していてよかったなあ、と思いますねえ」しみじみと言う馬場さんですが、その面持ちは少し誇らしげでした。

#### 運転ボランティア なせばなる！？

これから運転ボランティアをしてみようとする患者や送迎活動に取り組もうとする腎友会にむけてアドバイスをお願いしたところ、「思い切ってやってみて下さい！何事も“なせばなる”ですよ！」と、真っ先にエールの言葉をいただきました。しかし、実際に“なせばなる”を実現するためには、さまざまなコツがあるようです。一例として馬場さんが挙げたのは、継続性

についてでした。

「どんな活動でもそうですが、やっぱり何事も継続することが大事です。最初は大変だったり上手にできなかったりしても、続けていくうちに上達もすれば協力者もあらわれるものです。そのためには、最初から何でも一人でやろうと思わないことです。自分一人だけで頑張ってしまうと、どうしても息切れしてしまいますよね。色々な人に相談するなどして、周囲を巻き込んだらもっとうまくいくと思いますよ」

実は、ファイリングや報告書の作成といった事務的な作業があまり得意ではないという馬場さん。自らが運転ボランティアとして活動し、また送迎団体を安定して運営できるのは、不得意分野を担ってくれる仲間にも恵まれたことが非常に大きいと言います。

#### 透析患者ボラは無理なく・前向きに

無理せず長く続けようという馬場さんのボランティア活動スタイルは、自分の出来ることを出来る範囲で行おうというボランティア活動の基本的な考え方を身をもって表しているように思えます。そのスタイルを維持することは、同じ透析患者として仲間の通院を支援するうえで重要なポイントになっているようです。また、この紙面では十分にお伝えしきれませんでした。馬場さんは実に前向きな考え方をお持ちの方です。この前向きさもポイントの一つなのではないでしょうか。

今回は…

ユニタク ①